



鹿骨東小学校



1年間ありがとうございました

鹿骨東小学校校長 中田 伸代

3年前の4月。着任した鹿骨東小学校には臨時休校中で子供の姿はなく、そのとき4年生だった子供たちが今、6年生としてもうすぐ卒業して行きます。卒業文集をのぞいてみましょう。(文は抜粋しています。)

●私はこの6年間で沢山友達ができました。「友達と会える」ということだけで、学校に行く少しの糧にまですりました。一緒にいるだけで楽しいことがいっぱいありました。その中でも私が友達と一緒にいて楽しかった事は、物事をやり抜いた時です。長縄大会やチームごとでの授業の発表、御神楽など、自分だけではやり遂げられないものです。『一緒にいた時間は宝物』

●SDGsの活動で私は募金活動を行いました。私たちが募金したお金を宍戸先生に預け、ベトナムにある山奥のフック・ソン小学校に届ける事ができました。フック・ソン小学校の子供たちから「ありがとう鹿骨東」と日本語で言ってくれたのです。それを見て私は、一生懸命募金活動をし、寄付した小学校からお礼の言葉を贈ってくれたことに自然と笑みがこぼれ、すごく嬉しい気持ちになりました。『二度とない感情』

●私が5年生の時に6年生全員が鹿骨東の伝統の御神楽を江戸扇子と錫杖を持って息ぴったりに踊っている姿を見ました。御神楽を最後まで踊りきった6年生がとてもカッコいいなと思いました。私は6年生になり、「5年生に御神楽を引き継いで行ってほしい。」という気持ちを持つようになりました。一つ一つの技を丁寧に華麗に踊っている5年生は想像以上の踊りで迫力がありました。見たときは伝統を引き継ぐ事はとても大切な事なんだなと思いました。『伝統を引き継ぐ大切さ』

●小学校生活の中で頑張ったといえる事の一つは「持久走記録会」です。6年生の12月。「持久走記録会で5位以内に入る！」という目標を持って毎朝近所をランニングしたり、エアロバイクをこいだりして練習しました。しかし体調不良で参加することができず、当日はすごく悔しい思いをして自分が努力したのもでも必ずしも実るものではないと実感しました。だけど今までの努力はいつか僕の力になると思っています。それに目標や夢をもって努力すれば近付く事はあっても、それから遠ざかることはないんだとも僕は思っています。

『努力する事の大切さ』

コロナ禍でも、生きていく上で大切な事をしっかりと学んで卒業して行く素晴らしい卒業生たち。これまで共に見守り育ててくださった地域・保護者の皆様に心から感謝申し上げます。今年度も大変お世話になりました。来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

<ご連絡>

★トルコ・シリアの地震の事を知った子供たちの有志が3/6まで募金活動をしています。子供たちの自主的な活動です。可能な範囲でご協力頂けると幸いです。預かったお金はトルコ大使館を通じて現地に送ります。

★ご協力頂きました衣類のリサイクル12箱は「特定非営利活動法人 日本救済衣料センター」を通して海外の救援物資として送られました。輸送費高騰につき、1箱1500円の輸送費はPTAよりご援助頂きました。

★以前行ったSDGs募金35,458円は道徳地区公開講座でお世話になった宍戸仙助先生の手でベトナムのフック・ソン小学校に届けられ、電気がない山村でも使えるリチウムイオン電池付き、アンプ付きスピーカーを購入して頂きました。現地の子供たちからお礼のメッセージが届きました。是非ご覧ください。



SDGs 募金の報告・フック・ソン小学校からのお礼のメッセージ

